

県立高等技術専門校の整備のあり方の検討に係る
宮城県職業能力開発審議会（第5回目）議事概要
※令和2年度第2回宮城県職業能力開発審議会として開催

日 時：令和2年7月29日（水）午後2時から午後3時30分まで

場 所：宮城県行政庁舎4階 庁議室

出席委員：田邊会長，大泉委員，佐竹委員，齋藤委員，小野委員，熊谷委員，後藤委員，井上委員
谷垣委員，野口委員（委員11人中10人出席）

概 要：

前回会議で出された答申案に対する修正意見と、会議後に分かった白石校の今後の維持管理・修繕費の状況等を踏まえて作成した最終答申案について、その概要、答申案からの修正項目、修正理由を事務局から説明し内容を確認した。主な確認内容は以下のとおり。

- ・白石校以外は老朽化が著しいが、白石校は比較的新しいことから、白石校を存置する前提で3～2校再編としていた。
- ・白石校の維持管理に今後多額の費用がかかる見込みであり、今後大規模修繕を行ったとしても、いずれは建物を新築する必要がある。
- ・3～2校に再編しても、少子化の進展による今後の新規学卒者の減少が明らかな状況であり、一定期間経過後にはさらなる再編の議論が必要となる。
- ・このことから、県の厳しい財政状況や少子化、人口減少の進展、効率的な運営といった点を考慮すると、1校に集約することが合理的である。
- ・3～2校に再編の場合は、白石校の存置を前提に、地域バランスを考慮して圏域を設定していた。
- ・1校に集約するとなれば、県内全域の中から適地を選定していくことが適当であり、学生の利便性を考えると交通アクセスの良い場所に整備することが重要である。
- ・通学が困難となる地域の訓練ニーズへの対応を検討することが必要である。
- ・企業のニーズを踏まえた課程や科目を検討することが必要である。

現在の5校を1校に集約することについて、委員から出された意見等は以下のとおり。

- ・1校集約を推し進めてきたので、異論はない
- ・特段意見はなく賛成である。
- ・1校集約に関しては効率化の観点から非常によい。
- ・1校集約に賛成である。こういったものは、タイミングということもある。
- ・1校にすれば、どうしても仙台圏に一極集中してしまう可能性が高いので、もう少し丁寧な議論が必要ではないか。
- ・将来的に1校になることを視野に入れていたので、タイミング的な問題と考える。
- ・1校に集約するというのであれば、アクセス的にどういった場所に立地するかが、重要になる。
- ・人口減少と県の財政などを考えれば、納得できる。1ヶ所であっても誰もが通いやすい場所を期待したい。
- ・1校で賛成だが、通学距離は大きな問題である。

県内全域の中から適地を選択し、利便性の観点から、交通アクセスの良い場所に整備することについて、委員から出された意見等は以下のとおり。

- ・現仙台校の場所は、面積や人材開発センターの立地の点で魅力的である。学校ではなく、職業訓練施設なので、グラウンドや体育館の整備までは必要ないのではないか。
- ・他の職業訓練施設との役割分担を整理して検討する必要がある。
- ・仙台に一極集中となるのは良くない。また、同じ場所だと単に建て替えただけという印象を受ける。
- ・学生の利便性を考えると、仙台圏になるのかなと考える。
- ・仙台にすべての施設が集中するのはよくない。民間の専門学校でもやっているのに、さらに仙台に置く必要はないのではないか。
- ・鉄道利用を考慮すると、仙台圏になるのかなと考える。
- ・アクセス的な部分が一番であるが、少し遠くてもこの科があるので絶対入りたいということも大変重要である。
- ・通うことで疲れてしまっは困る。場所の選定と中身の選定を一緒に考えることが必要である。
- ・しっかり訓練できる広さを確保できることが一番である。また、周辺の地域によい波及効果をもたらすという考え方もあるのではないか。

以上のとおり、肯定的な意見が多かった一方で、今後、県が整備計画を策定していくにあたり、参考としたり、検討すべき意見もあったが、答申案そのものについては修正なしで、異議なく了承された。最終答申案により、7月30日に会長から知事に答申することを確認した。